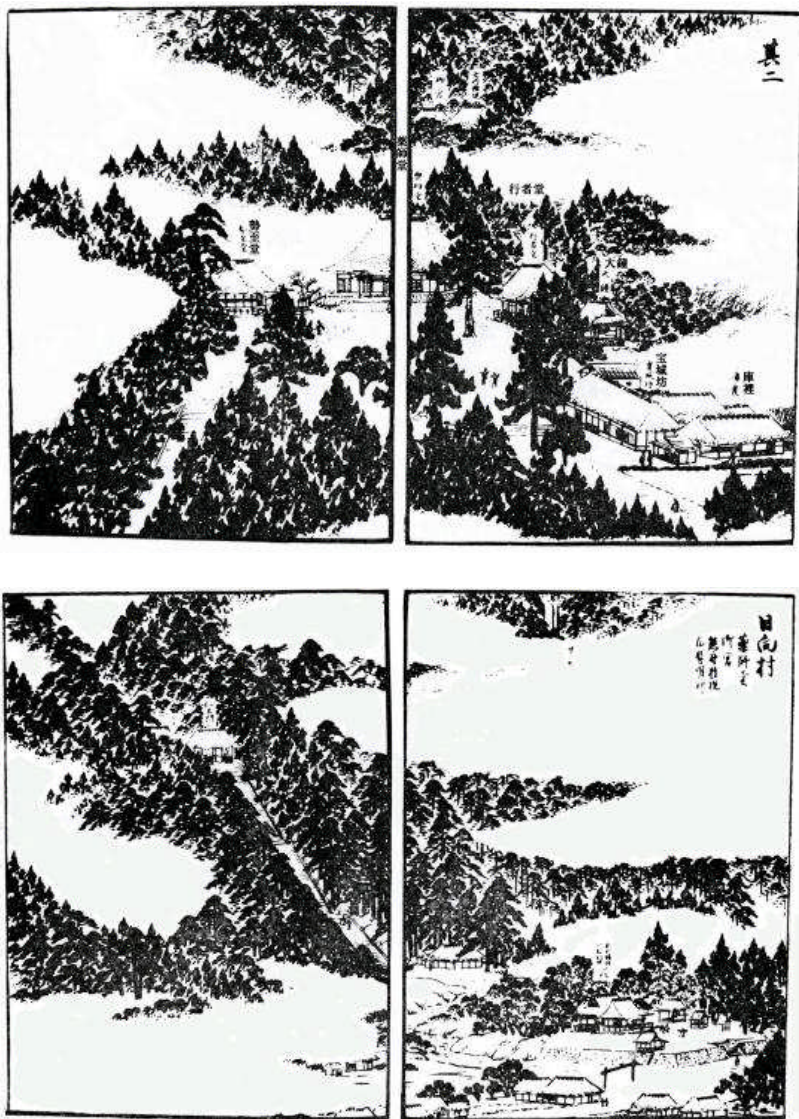


国重要文化財

# 日向・宝城坊本堂見学会



【相中留恩記略】より

平成23年4月15日（金）

伊勢原市教育委員会

# 1 宝城坊の伽藍の変遷

奈良時代、靈龜<sup>れいき</sup>2年（716）行基<sup>ぎょうき</sup>により開創されたといわれる日向薬師・宝城坊は、明治初年の神仏分離までは日向山靈山寺（りょうぜんじ）と呼ばれ、十二ともいわれる坊があり、宝城坊は別当として寺務を取り仕切りました。

鉦彫りで有名な本尊・薬師三尊像は平安時代10世紀の作といわれ、すでにその頃には薬師堂があったといえます。境内からは平安時代の布目瓦<sup>ぬのめがわら</sup>が出土しており、瓦屋根がある建物があったと推定されます。

明治40年頃まで存在した「勢至菩薩立像」<sup>せいしぼさつりゆうぞう</sup>（立像は江戸期の版木による推定）は金銅仏と思われ、奈良時代の作ともいわれています。

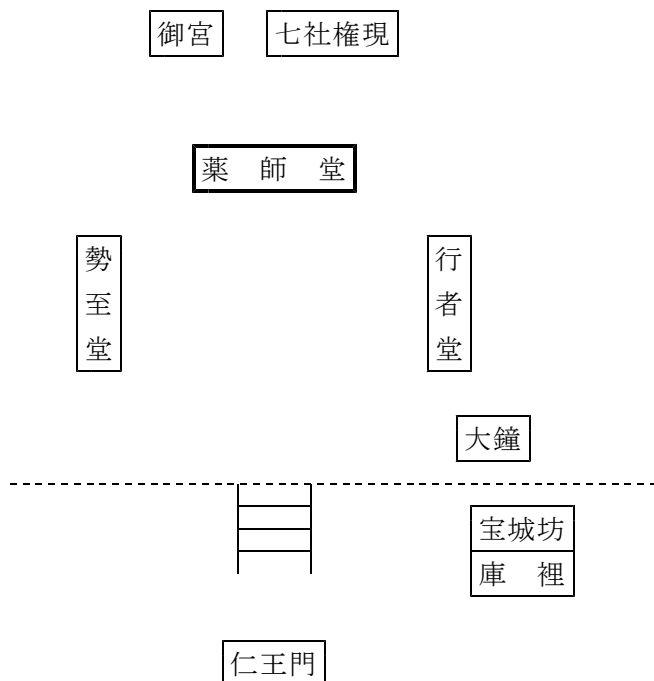
鎌倉初期に源頼朝や北条政子が参詣していますが、建暦元年（1211）には政子が実朝夫人とともに参籠しており、それが可能な施設があったと考えられます。

また、平安時代末から鎌倉初期頃に像高235cmの薬師如来坐像、像高273cmの阿弥陀如来坐像が製作、安置されています。丈六といわれる大きな像を納めるお堂があった、あるいはその頃建造されたとも考えられます。

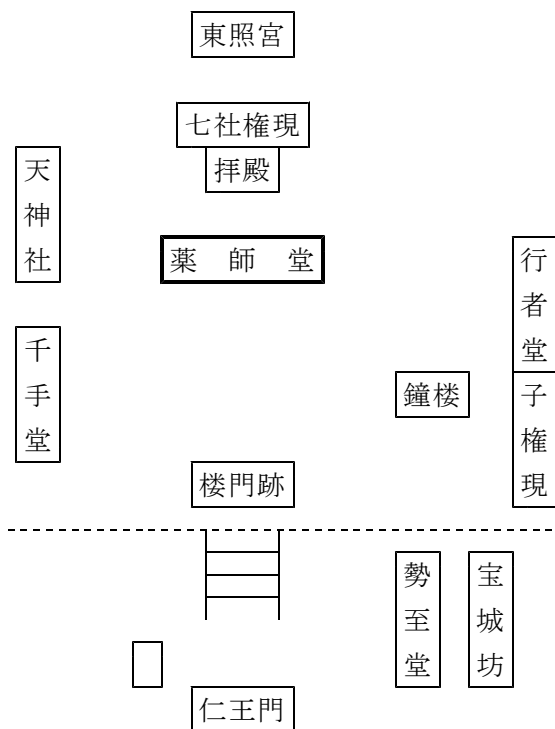
康暦2年（1380）には、三河<sup>みかわ</sup>（愛知県）、駿河<sup>するが</sup>（静岡県）の棟別銭<sup>むなべちせん</sup>（家屋の棟ごとの税）により堂宇の修理が行われたようです。これから約300年後、現在の本堂が建設されました。

日向薬師の伽藍の変遷を知ることができる史料で、19世紀以前のもは、現在のところ確認されていないようです。

## 【相中留恩記略】天保10(1839)年成稿の伽藍配置



## 【新編相模国風土記稿】天保12年(1841)成立の伽藍配置



二つの資料を比べると、<sup>せんじゆ</sup>千手堂や<sup>せいし</sup>勢至堂の位置が相違しています。

これらより古い文政6年(1823)の伽藍配置図が、『伊勢原町勢誌』がありますが、『風土記稿』に近いようです。現在は薬師堂(本堂)と鐘楼、宝城坊、仁王門(天保4年焼失・再建)が残るのみとなりました。

七社権現は、<sup>しちしやごんげん</sup>石尊・<sup>せきそん</sup>蔵王・<sup>ざおう</sup>箱根・熊野・伊豆・山王・白山の権現を祀る社です。棟札に、古来より祀られていたが、損傷したので、元文5年(1740)に学頭・善慶により修理されたとあります。

また、千手観音を祀る千手堂は棟札によれば、元文4年(1739)にこれも善慶により造営されています。

## 2 本堂・薬師堂について

『風土記稿』には、万治3年(1660)に宝城坊慶山の代に、幕府から丹沢山の御林の立木100本を賜り、本堂を修造したとあります。これが現在の本堂であるといわれていますが、確実な資料は残されていません。今回の大修理で資料が発見される可能性があります。

その後、元禄2年(1689)に修理が行われたのが、本堂正面の扉にある金具に彫られた銘文からわかります。

<sup>かんぼう</sup>寛保3年(1743)から<sup>えんきやう</sup>延享2年(1745)にかけて、約3年間薬師堂や仏像の大修理が行われています。これを行ったのが上にも述べました法印<sup>あじやり</sup>大阿遮梨・善慶です。

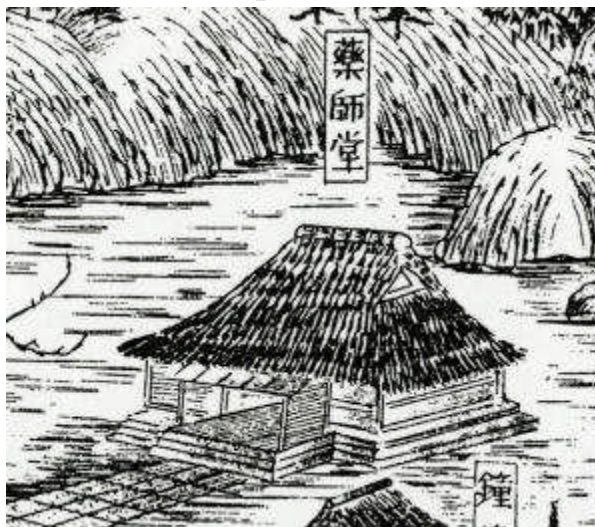
明治以降の修理は、屋根の葺き替え程度であり、大正12年(1923)の関東大震災により損傷が進んだようです。ちなみに、本堂の左右と裏面の軒先を支える柱は、電柱です。

#### 【相中留恩記略】の本堂



薬師堂とあり、草葺きの優美な曲線を描いている屋根の感じがよく出ていて、現在の本堂の姿が忠実に描かれていると思われます。正面の向拝（ごはい）も比較的正確に描かれています。

#### 【新編相模国風土記稿】



上の図と比較して表現が大分粗いようです。

### 3 重要文化財の指定

平成7年12月26日、重要文化財に指定されました。

これは簡素ながら古材を採用して中世的な趣を伝える広大な内陣空間と、近世的な華やかな外陣の架構にみるべきものがあるとの評価によるものです。解体修理によりその価値が一層高まるものと思われます。

【規模・構造】

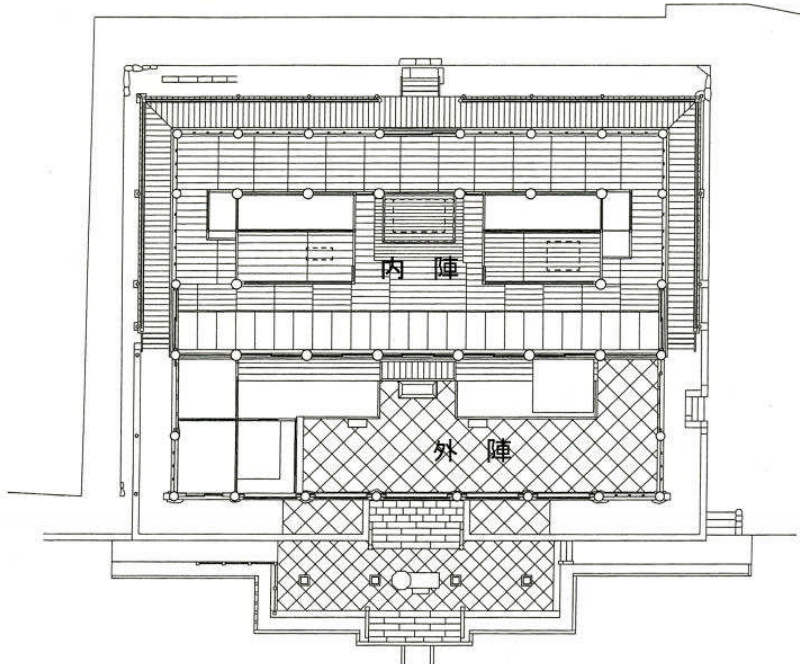
茅葺の七間堂

桁行七間けたゆき（約22.7m）、梁間五間はりま（約21m）、  
寄棟造（棟高約17.7m）、向拝3間（銅板葺）

平面積 429.3㎡

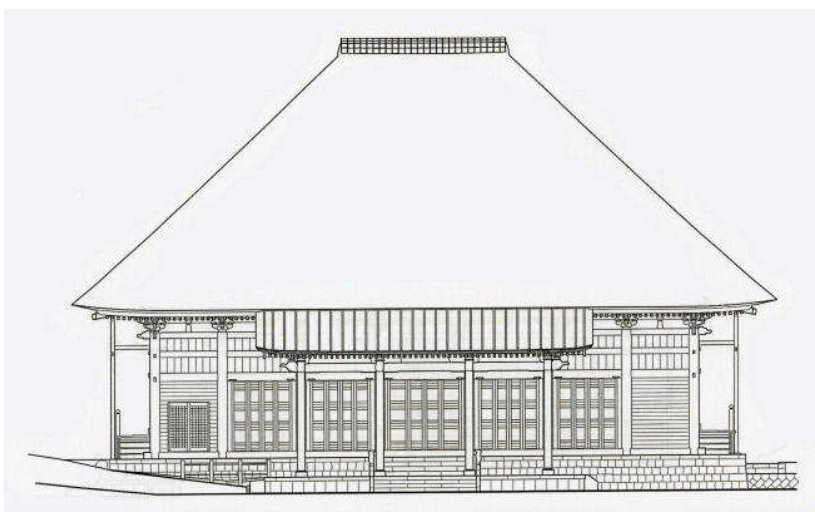
軒面積 643.9㎡

屋根面積 1,043.6㎡



本堂 平面図

本堂内部の前2間は土間床の外陣となり、後方3間を板敷の内陣としています。内外陣の境は引違の格子戸となっています。



本堂 南立面図

#### 4 本堂修理事業について

外観を見ていただければ、茅葺きの屋根の状態、軒先が波打っている状態がよくわかります。

内部の柱もキクイムシにより空洞化しているものがあります。虫害は根太や床板にまで及んでいます。

このように350年を経て、傷みが建物の保存に大きく影響することがわかり、根本的な修理事業とすることになりました。

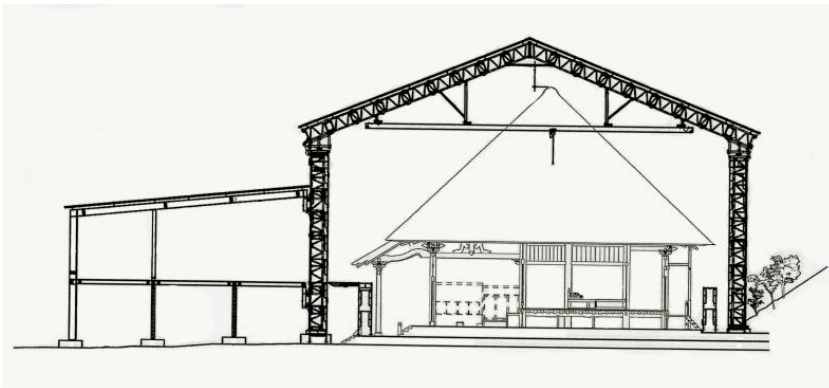
宝城坊本堂解体修理は、平成22年11月から平成28年12月までの74ヶ月間という予定で着手されました。

工事期間は平成28年9月末までの71ヵ月を予定しています。工事は2期に分け、1期工事は素屋根を設置し、解体を行います。解体工事は平成24年6月末に終了する計画です。

2期工事は建物の組み立てとなります。本堂建造後も先に記しましたように数回の修理が実施されていますので、いつの時点の建物に復元するのかを検討し、設計が行われます。耐震補強も従来より強化されると思われます。文化庁の審議を経て承認された設計に基づき、建物を組上げます。

平成28年は、日向薬師が僧・行基により開創されたという霊亀2年（716）からちょうど1300年目に当たります。

現在、国庫補助事業として計画に沿って順調に進んでいます。今秋にも見学会を開催する予定です。



素屋根で覆われた本堂及び本堂前作業小屋

本堂以下の図面は、本堂解体修理の設計監理を担当されている、公益財団法人文化財建造物保存技術協会の作成によるものを許可を得て使用しました。

無断転載をお断りします。

#### 宝城坊本堂見学会資料

平成23年4月15日(金)

伊勢原市教育委員会教育部

文化財課 TEL 0463-94-4711(代)

